

令和5年度北部公民館重点目標に対する評価

- (1) 今後も地域の団体などと連携・協力し、地域の資産を活かした特色ある公民館事業や地域の行事を共催で実施することで、地域住民の交流と豊かな地域づくりを目指していく。

評価：地域の団体との連携・協力としては、昨年引き続き文化祭を開催した。今年度は模擬店の出店に合わせ、福祉まつりを合同で実施したことで、子どもから高齢者まで幅広い年代の来館があり盛況であった。また、5年ぶりに体育レクリエーション大会をアンデルセン公園で実施をすることで、特色のある事業と地域交流を図ることができた。

学校との連携事業としては、豊富小へ社会教育関係団体（ウクレレ）によるクラブ活動支援、豊富高校による読み聞かせ、中学生による行事ボランティアへの参加協力、特別支援学校の高齢者学級でのダンス部の公演を行い、いずれの事業も好評であり目標は概ね達成できた。

- (2) 行政機関や地区社会福祉協議会などと連携・協力をし、高齢者の健康寿命を延ばし健康で豊かな生活を過ごせるような事業を企画し、高齢者の社会参加と健康の維持・増進を図る。

評価：豊富寿大学、介護予防教室・ふなばしシルバーリハビリ体操（健康づくり課との共催事業）をコロナ前の回数で実施することで、外出機会の提供、高齢者の仲間づくりや健康維持の増進を図ることで、フレイル予防に繋がることができ、目標は概ね達成できた。

- (3) 地域の方々が楽しんで参加してもらえるような魅力ある事業や地域の特色を活かした事業を企画し、地域の拠点として多様な学習機会を提供することで地域の活性化を図る。

評価：幅広い年代が楽しめる事業として、ボッチャ体験、北部公民館で人気のある菊づくり講習会、陶芸講座、歴史産物が多く残る地域であることから歴史散策、コンサートに触れる機会が少ない地区からクリスマスコンサート、とよとみジョイフルコンサートなど多方面に渡る事業を企画し開催することができた。また、今年度より、遺言状講座、生涯学習コーディネータとの共催による世界遺産の旅など、魅力ある事業も実施することで、地域の方々が楽しんで参加してもらえることができた。地域の資産を活かした公民館事業では、県民の森での自然散策、アンデルセン公園でのカメラ講座を実施した。

- (4) デジタルデバインド対策事業の拡充を目指す。

評価：地域の課題として、インターネットに関する学習を望む声が少ないことから、今年度も5回実施（ソフトバンク4回、ジェイコム1回）をした。基本操作に加え、近隣に商業施設が少ないことから、電子マネー・QR決済の体験を実施した。近年ではスマートフォンによる申請、買い物等々社会生活を送るうえで欠かせないものになることから、次年度以降も継続して実施をしたい。

(5) 北部地区公民館の基幹館として地区館との連携を図り、広域事業の実施や施設管理などの支援に努める。

評価：北部地区7館の基幹館として、地区館の緊急性の高い修繕等を実施し施設管理に努めた。また、合同事業ではマンパワー不足を解消することで、より魅力的な事業を実施し、多くの参加者を募ることができた。今後も基幹館として広域事業や施設管理など地区館と連携し業務を進めていきたい。

令和5年度二和公民館重点目標に対する評価

- (1) 講師に社会教育関係団体を招いた事業や団体間の交流の場を設ける等、日ごろの活動成果を発表する事業を実施する。また、様々なライフステージに応じた事業を展開することで、サークル化につながるよう支援に努める。

評価：サークル交流会は各団体との日程調整の際に都合が合わず中止となってしまった。

また、社会教育関係団体である「二和そばの会」を講師に招き、親子を対象としたそば打ち体験の実施や文化祭における模擬店への出店により、社会教育関係団体と地域住民との交流の機会を提供することができた。文化祭においては展示部門・発表部門共に集客が多く、地域交流とサークル活動への理解と関心を一層深めてもらうことができた。

- (2) 高齢者の引きこもりや孤立防止につながる事業を実施し、併せてデジタルデバインド対策、健康づくりにも重点を置き、高齢者を健康で豊かに暮らすための場を提供する。

評価：定着した「二和寿大学」のほか、高齢者の健康づくりに繋がる主催事業の「ふなばしシルバリーハビリ体操教室火曜コース」では、延べ563名と前年度より225名も多い参加があり、地域への広がりを実感できた。また、デジタルデバインド対策としてスマートフォンの基本操作からLINEの体験講座を実施。スマートフォンの便利さを知る機会を提供できた。

- (3) 幅広い世代の方が参加できる事業を実施するとともに、地域のコミュニティの場として利用を促進し、気兼ねなく立ち寄れる公民館を目指す。また、二和地区自治会連合会と連携し、災害時における各家庭での備えや自治会等の備蓄品について確認できる機会を提供し、自宅避難や自主避難時の留意点を学べる事業を実施していく。

評価：青少年事業では好評を博した「夏休み子供工作教室」や「化石発掘体験」のほか、ハロウィンに関する各種アトラクションを通じて子供同士の交流を深めるとともに親子が触れ合う時間を提供することを目的とした「親子でハロウィンを楽しもう」を初開催。夜間の施設活用の周知と併せて実施することができた。

成人対象事業では、例年多数の申込みがある「スキルアップ講座」や「はじめての足裏リフレ」「郷土史講座」をはじめ、新規事業の「重陽気功体験」では、参加者からの継続要望もあり、講師の所属する船橋重陽気功協会と連携してサークル育成の取り組みを進めている。

なお、二和地区自治会連合会との共催事業は中止になってしまったが、主催事業の防災講座では地震災害を想定し自宅で出来る備えや在宅避難等について学ぶ機会を提供することができた。

- (4) 音響・照明等の機能を有する講堂を、文化・芸術活動推進のため積極的に活用し、主催事業の充実を図るとともに、各種団体によるコンサートや発表会等の利用を支援する。

評価：当該年度より公民館におけるガイドラインが不要となったことから、主催事業においては本来の収容定員で開催できる充実した内容に、来場者から大変好評を得ることができた。また、発表会等による利用団体へ貸出については、徹底した事前打合せと演出への協力により円滑に実施することができた。

令和5年度海老が作公民館「重点目標」に対する評価

(1) 深刻な高齢化に対応していくため、地域団体や地区社会福祉協議会と連携し、高齢者の生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりを目的とした学習や活動を推進する。

(2) 高齢者向けのデジタルデバイド対策講座を引き続き実施し、デジタルデバイドの解消を図る。また、高齢者以外の年代にも対応した、デジタルデバイド対策に関する学習を推進する。

評価：[市民企画「学びの糸口～心楽暮（こらぼ）～」は、4回講座で、制作、散策、座学、レクチャーコンサートと様々な内容を提供、「市民企画「元気が出る生涯学習講座」は2回の歴史講座で、座学と館外散策を実施し、多くの参加をいただき、学び直し、趣味の発見が図られたと考える。また、大穴地区社会福祉協議会との協力による事業「いきいきサロン「花梨」」は、継続した参加をいただき、地域の繋がりを図りました。

デジタルデバイド対策としては、複数回の講座を行い、解消に向けた取り組みを行った。

(3) サークル活動が継続して行えるよう、サークル活動を支援するとともに、新たな会員獲得に向けたサークル支援事業を実施する。

評価：海老が作サークル一日体験講座では、参加者が事業終了後、各サークルに加入するなど、一定の成果を収めることができた。今後も、サークルの活性化に繋げていきたいと考えます。

(4) 青少年育成団体や学校、児童ホーム等と協力しながら、青少年の活動の場を確保するとともに、創作活動や新たな仲間と遊ぶことの楽しさを体得できる取組を実施していく。

評価：「ハッピーサタデー事業」は、青少年育成団体との協働により運営し、管区内の小学校のご協力を得てチラシを配布するなど、地域内交流も図ってきた。また、「巡回児童ホーム事業」など、三咲児童ホームと協力し事業に取り組んだ。

(5) 市民協働による公民館活動を推進し、市民ニーズを取り入れ幅広い世代の市民に、多様な学習や芸術活動を提供する。

評価：地域住民のニーズを反映した事業を行うため、「海老が作寿大学」は、生涯学習コーディネーターのご協力を、「ふなばしハッピーサタデー」事業は、地域の青少年関係団体のご協力を（子ども会連合会、青少年相談員、スポーツ推進員、ボーイスカウト等）、「七夕コンサート」「クリスマスコンサート」は地域住民からなる「コンサート実行委員」のご協力をそれぞれいただいて、実施するなど、住民の要求を事業に反映させることができた。

令和5年度小室公民館重点目標に対する評価

- (1) 地域住民の様々なニーズを捉え、ライフステージに応じた多様な学習機会の提供に努める。

評価：小室地区は新規の住宅の建設が現在も進んでおり、子育て世代は増加傾向にあるが、公民館の主な来館者層は、対象事業に参加する小学生、高齢者であるのが現状である。その他の中高生、子育て世代などの層が比較的希薄である。6年度は新規の内容の講座を企画し、今まで利用が少なかった年齢層の関心を反映した事業を実施していきたい。

- (2) 青少年教育の充実を図るため、小室地区青少年健全育成連絡協議会や各種団体、学校等と連携し、青少年の体験学習等健全育成を図る。

評価：青少年事業は例年好評の「読書感想文教室」のほか、各種団体と連携し、「ふなばしハッピーサタデー事業」などを実施した。青少年健全育成連絡協議会やスポーツ推進委員会等地域団体との連帯が非常に密な地域であるため、来年度も引き続き地域団体等と協力し、青少年活動を推進していきたい。

- (3) 増加傾向にある子育て世代が地域とふれあい、愛着がもてるように、併設している児童ホームと共に各種活動の機会を設ける。

評価：5年度も「小室こどもまつり」を児童ホームと共催で、アイデアを出し合いながら綿密に打ち合わせをしたうえで開催した。児童ホームとはほかにも「人形劇をみよう」「親子ピラティス教室」を実施したが、今後も連携して事業を開催することで、両施設の親子での利用の増加に繋げていきたい。

- (4) 高齢者が心身ともに健康で潤いのある生活を送れるよう、地区社会福祉協議会や各種団体と連携し、参加者同士の交流の場と健康増進を図る学習機会の提供に努める。また、高齢者デジタルデバイト対策事業を引き続き促進していく。

評価：5年度も寿大学を始め、「Let's Enjoy バランスボール」「シルバーリハビリ体操」など高齢者向けの健康増進に関する講座を充実した内容で開催することができた。高齢者向けのデジタルデバイト対策事業も実施し、情報機器を気軽に使用する機会を継続的に提供できた。地区社会福祉協議会と共催の「料理サロン」などの活動も再開でき、参加者に喜ばれたようであるが、地域の高齢者のニーズをよりの確に把握するためにも今後も情報交換を密にしていきたい。

令和5年度八木が谷公民館重点目標に対する評価

(1) 人口の減少、高齢化が進む地域であっても、地域交流のほか、子供同士や世代間の交流が生まれるような機会を提供することにより、人との関わりの中で生活していることを知り、地域への愛着、地域貢献の意識を育む。また、青少年については、体験活動を充実させて、周囲との関わりを増やす。

評価：子供同士等の交流とした「ふなばしハッピーサタデー事業」では、ボッチャ・ヒップホップなどのスポーツや、ホバークラフト工作・パン作り・こどもまつり等様々な内容を実施し、子供たちはいろいろな催し物により様々な体験が行うことができた。

また「読書感想文教室」や「書き初め教室」では、講師の丁寧な指導により作品を完成させ、子供たちの満足度の高いものとなった。「ドローン体験講座」では、協力しながら積極的に取り組む姿勢が見られるなど、子供たちは世代間を含めて交流等が行えたと考える。

(2) 地域の高齢化率が高いことから、高齢期を豊かに生きるために、健康維持や増進のための学習機会の提供を推進する。

評価：知識と教養を深め、健康の増進に学ぶ「八木が谷寿大学」では、健康長寿の講話や体操、歴史講座、ごみの減量と地球温暖化の環境講座、落語など様々な内容の講座を実施し、満足度は高いものとなった。

また健康づくり・介護予防を目的とした「健康セミナー」においても、マットス体験や、常備薬・生活習慣病・口腔ケア・脳トレ等の講義を行い、この講座においても満足度は高いものとなった。

その他に、参加者の多い「ふなばしシルバーリハビリ体操教室」や、繊細な作業により脳や全身の活性化を期待する「介護予防事業 暮らしを彩る趣味の園芸」を実施するなど、高齢者の健康維持や増進のための学習の提供が行えたと考える。

(3) 八木が谷地区は交通機関が限られることや、買い物困難地域もあるなどから、ネットショッピングを含むデジタルデバインド対策を推進することにより、高齢者などの方が生活しやすいように学習の機会を提供する。

評価：デジタルデバインド対策事業として「買う前にわかる！スマートフォン体験教室(入門編)」、「触って体験！スマホの基本とLINE体験」や、「スマホの基本とキャッシュレス」を実施したことにより、生活がしやすい学習の機会を提供できたと考える。

(4) 学習に期待することは、心身の健康を維持・増進することを重視していることや、何かを継続して学ぶことが生活の充実につながると考えられることから、健康関連はもちろん趣味の幅が

広がるような事業を実施していく。

評価：庭木の特徴に応じた剪定の知識や技術を学ぶ「庭木の手入れ入門講座」や、ガーデニングの基礎を学び、自宅でも活用できるようにする「ガーデニングの基礎を学ぶ 花と緑で彩る冬の寄せ植え」では、講師の丁寧な説明もあり、参加者は真剣に作業に取り組むなど、意気込みが感じられた。

また「暑い夏を快適に過ごそう!紫外線・汗対策講座」や「時代や流行に左右されない基本的な大人のメイクアップ」では、コロナ後の生活に役立てることができ、継続して学ぶなど趣味の幅が広がる事業が実施できたと考える。

(5)サークルの高齢化を防ぐため、新たな会員が入会できるような事業を行い、サークルの活性化を図る。

評価：会員増員や新たな趣味を見つける手助けをする「大人の趣味時間」では、参加者が少ないものの、アンケートでは「満足をした・やや満足した」が88%となり満足度は高いものとなり、新規入会した方がいるなど、サークル活性化に役立てることが出来たと考える。

令和5年度三咲公民館重点目標に対する評価

(1) 地域の高齢者の運動機能の向上・健康寿命の延伸、生きがいつくりに寄与する事業を実施し、高齢者が心豊かにすごせる場を提供する。また、地区社会福祉協議会と協力しながら、高齢者の参加しやすい事業を実施し、地域で閉じこもり傾向にある高齢者の参加を促す。

評価：運動機能向上・健康寿命の延伸のため、「ふなばしシルバーリハビリ体操教室」は2講座開設した。気軽に参加できる運動の場として好評であった。「三咲寿大学」は運営委員と協力して実施し、年代に沿った学習や憩いの場として機能した。また、高齢期に必要な知識を身に付けることで安心した生活を送れるよう、「はじめての相続講座」を実施した。令和5年度は地区社会福祉協議会が事業を行えない時期があり、共催を行っていない。

(2) 社会教育関係団体・地域団体の活動の支援を行い、社会教育関係団体の育成に努める。

評価：「サークル活動自由見学ウィーク」を実施し、生涯学習に興味がある方とサークルをつないだ。また「はじめてのカリンバ体験」「呼吸と発声による健康向上の集い」「フォークギター弾き語り再入門講座」がサークル化した。

(3) 併設している三咲児童ホームと連携・協力して、子育て支援事業を実施し、地域の子育て世代が交流できる場を提供する。

評価：「本館家庭教育セミナー」や「英語であそぼう」「ベビーマッサージ」を三咲児童ホームと共催で実施し、子育て世代が交流できる場を提供した。

(4) 近隣地域の学校・児童ホーム・地域団体と協力して、青少年が体験・学習できる事業を実施し、青少年の健全育成や居場所づくりに寄与する。

評価：ふなばしハッピーサタデーでは「クッキー作り教室」「はじめてのヒップホップダンス教室」「みんなでモルック体験」等、地域の団体等に講師を依頼し、様々な体験・学習ができる事業を実施した。夏休みには「こども応援プロジェクト」として「読書感想文教室」「こども環境科学教室」「こども俳句教室」を実施した。

(5) 今後、大きな災害が起こることを想定して、地域住民を対象に災害対策に関する事業を実施し、防災の知識と対策を共有する。

評価：防災講座「在宅避難、備えは大丈夫？」を実施し、災害時、在宅避難となった場合のノウハウを学んだ。

(6) 現代的課題や地域の課題に取り組む事業、住民の学習ニーズに対応する事業を実施し、成人向け事業の充実を図る。

評価：現代的課題であるデジタルデバイドの解消に向け、「デジタルデバイス対策講座」を実施した。また、「座よさこい健康体操」「はじめてのカリンバ体験」「参道狛犬ものがたり」「はじめてのそば打ち体験」「フォークギター弾き語り再入門講座」「環境講座～日本の伝統ふろしきでSDGs!～」等、学習ニーズに対応する事業を実施した。

令和5年度松が丘公民館重点目標に対する評価

- (1) 青少年育成団体、学校、児童ホーム等と連携し、青少年の体験活動や主体性を伸ばしていく事業を実施する。また社会教育関係団体や地域住民との協力により、子供同士や地域の大人との交流を図る場や機会を提供できる事業を実施する。

評価：学校と地域を結ぶ場としての公民館事業を計画し、学校や地域の理解と協力を得て当初の目的を達成することができた。青少年を対象とした事業においては、地域団体や児童ホームとの連携、社会教育関係団体を講師として実施をした。参加した子供たちは地域の大人や子供同士で事業を楽しんでいる様子で、各事業とも子供たちが地域に親しみを持つ一助となったものとする。

- (2) 家庭教育に関する事業を実施して子育て世代を支援する。

評価：「家庭教育セミナー」では、地域で子供を見守ることを視野に入れ、初めて保護者だけでなく地域の人を対象として開催した。これまで、家庭教育に関心が低い人に参加してもらうための方法を考えてきたが「食育の話と親子で調理実習」では、親子のコミュニケーションを図る場が提供でき、家庭教育にそれほど関心が高くない人でも参加しやすい講座になったものとする。「就学時健診等における子育て学習」では、昨年度のアンケートで現代的課題を希望する意見が多くあり、今年度は保護者の年齢に近い講師を選定したところ、アンケートで9割以上が参考になったと回答したことから、今後の子育てに対して効果的だったものとする。

- (3) 地域のあらゆる人が、スポーツや文化活動に参加するきっかけをつかめるような魅力ある事業を計画する。また、持続可能な開発目標(SDGs)を意識した事業により地域での支援活動や環境保全に関心を持つ機会を提供するとともに、各年代にあった広報の方法を検討する。

評価：様々な人を対象として多くの事業を実施し、スポーツや文化活動に参加するきっかけづくりができたものとする。有償ボランティア活動に登録して活動する方法を学習する事業では、再チャレンジする人への学習支援につながったものとする。また、読み聞かせボランティア研修会では、読み聞かせの初心者・経験者を限定せず募集したが、初心者にはわかりやすく、経験者には確認する機会となり、参加者の90%が満足する内容となった。持続可能な開発目標(SDGs)については、個々に取り上げることはなかったが「ふなばしハッピーサタデー事業」などで、SDGsを意識した内容を取り入れて学習することができた。

- (4) コンピュータ、インターネット、スマホなど、様々なITに関する情報格差をなくしていくために、高齢者だけでなく様々な年代に対応したデジタルデバйд対策関連の講座を実施する。またオンライン講座など、新しい生活様式に対応できる方策を検討していく。

評価：スマホの基礎、LINE、QR決済、Zoomなどの使い方についての講座を実施し、いずれの講座も高評価を得た。特に新規事業として実施した「オンラインで工場見学」は、オンラインになじみがない50~80代の参加者が、オンラインで工場見学を体験することによ

り、オンラインのハードルを下げ参加者に満足感を与える効果的な取り組みができた。また、自分のスマホを使用して実施した講座では、事業内容をより身近に感じ今後の使用法に変化を与えることが予想され、デジタルデバインド対策に繋がったものとする。参加者は減少傾向にあるがアンケート結果からは、まだスマホ初心者のニーズがあり、情報格差を縮小させるために継続が必要と考える。

- (5) 高齢者が自分らしくそれぞれの生きがいを持ち、住み慣れた地域で健やかに暮らし続けられるよう高齢者事業の充実を図り、高齢者の孤立や閉じこもり防止に寄与する。

評価：「松が丘寿大学」を含め高齢者対象事業全般を通して、参加者は事業実施後の学習成果を持ち帰ることができ、地域の高齢者の生きがいがいづくりに寄与したものとする。

令和4年度「ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯調査」の分析結果では、松が丘地区の具体的なリスクとして「認知症」「うつ」「IADL（日常生活動作）の低下」「幸福感の低下」の4つが挙げられているが、高齢者対象の事業を実施するにあたっては、人とのコミュニケーションを図る機会を増やし、新しいことを学び、生きる意欲につなげることを意識し、今後も高齢者が地域でいきいきと暮らし続けることができるよう事業の充実を図りたい。

- (6) 地域における防災学習の充実や非常時の一人ひとりの心構えについて学習する機会を提供するとともに、館内職員は実践的な避難所訓練を実施し有事に備える。

評価：地域住民の防災意識を高めるために実施した災害に関する講座では、地域住民の災害に対する危機感の高さが感じられた。防災学習の講座は、評価シートでは、毎年実施しているため先進性の項目が低く評価されるが、先進性よりも継続して住民の意識を途切れさせないことの方が肝心と考える。地域における防災学習は、非常時の減災にもつながることから、地域住民と職員双方の防災に対する意識を高め、正しい知識や対応策を身につけてもらうために今後も継続して繰り返し実施していきたい。

- (7) 地域で周知されている生涯学習施設として地域の核となるよう情報収集し、様々な方法で発信していくとともに、サークル活動の支援・育成に努める。また、施設・設備の点検整備を心がけ、利用者が安心して利用できる居心地のよい施設を目指す。

評価：「サークル見学月間」では、公民館で活動する社会教育関係団体と連携して地域住民がサークルの見学や体験をすることにより生涯学習への理解を深め、高齢化などによる会員減少のサークル活動の活性化を促すことを目的に開催した。期間中に見学者が入会したケースもあり、今後も継続していく必要があると考える。「社会教育関係団体研修会」では、「社会教育関係団体のぞましいあり方」などについて話し理解を得られたものとする。また、サークル活動の相談など誰でも話しやすい環境を醸成し随時支援できる体制づくりと情報収集に努めた。年3回発行する「館報松が丘」では、事業の告知だけでなく報告を掲載し、公民館活動への理解を深められるよう努めた。また、ホームページや X（旧 twitter）、Facebook を活用し公民館の情報を様々な人に届けるよう努めた。施設の管理では、不備箇所を修繕し安全な施設を提供できるよう心掛けた。

令和5年度坪井公民館重点目標に対する評価

- (1) 地域住民の防災意識が高いことから、ニーズに合致した防災学習の場を提供するため、地域の防災について主催者（公民館）と参加者（住民）が一緒に考えた体験・実践型の事業を実施する。

評価：坪井地区自治連合会の協力のもと、学習テーマを選定し、地域防災講座を実施した。避難所を開設するにあたって、様々な課題に対応するための具体的なスキルを習得できる効果的な講座だったと認識している。坪井地域は自治会・町会の防災担当者を中心に、防災意識への関心が高く、日頃から災害時の備え等について準備を進めていることから、今後についても、各町会・自治会の皆様と意見交換を行い、ニーズに沿った講座を実施していきたいと考えている。

- (2) 地域の各種団体・機関と連携して子供たちに体験活動や学習の場を提供し、青少年の健全育成・居場所づくりに取り組む。

評価：坪井地区社会福祉協議会、坪井地区スポーツ推進委員会、船橋市スポーツと健康を推進する会などの団体の支援をいただき、地域の大人たちが温かく寄り添うことで、子どもたちが参加しやすい事業の実施ができたと感じている。また、大学施設が近いというロケーションを活かして、大学の先生方のご協力をいただいた体験型の事業を実施できたことも効果的であったと感じている。

- (3) 子育て世代・高齢者世代との交流を図り、地域の教育力の向上に向けた事業を展開する。

評価：文化祭では、地域で活動する青少年団体がダンスを披露したり、空手の演武を実演する等して、子供たちと高齢者をつなぐ世代間交流になったとともに、「ハッピーサタデー」では、地域の高齢者がゲームや、工作などの指導者となり、子供たちと触れ合った。子供たちばかりではなく、地域の方々にとっても有意義なひと時であったと認識している。今後も工夫して交流型事業を行いたいと考えている。

- (4) 高齢者が家に引きこもらないように、高齢者向け事業を定期的に行い、生きがいづくり・仲間づくりを支援する。また、高齢者が運動機能を維持するためのきっかけとなる事業を行う。

評価：「坪井みのり学級」「介護予防教室」「シルバーリハビリ体操」「フレイル予防講座」などの事業を実施した。出控えによる運動不足や、孤立化が増加しないための一助となったのではないかと考えている。高齢者の運動機能の低下を防止し、生きがいづくりや仲間づくりが行えるように、次年度についても、様々な趣向をこらした事業を実施し、高齢者の生活を援護していきたい。

- (5) 子育て世代を支援する事業、自分の生き方を見つめなおす成人向け事業の充実を図る。

評価：子育て世代を中心とした地域の一般成人を対象に様々な学習機会を提供するとともに、親子の絆を深め人生を豊かにすることを目的として、「楽しく生きよう！子育て講座」を実施したほか、児童ホームとの共催による乳幼児親子に寄り添う講座にも力を入れた。坪井地域の人口構成で一番多い世代が公民館に興味を持ってもらえるよう、次年度においても新たな取り組みに挑戦してみたいと考えている。